

2013年7月10日

<ダイキン『第19回 現代人の空気感調査』>

全国600名に聞いた「人とペットが共生する室内環境と空気の課題」に関する意識調査

節電より、留守番ペットの熱中症対策を意識

ダイキン工業株式会社は、この度、全国の20代～70代の男女600人を対象に「人とペットが共生する室内環境と空気の課題」をテーマに『第19回現代人の空気感調査』アンケートを実施しました。

『現代人の空気感調査』は、“空気”に関する現代人の意識や課題を浮き彫りにすることで、日頃意識されにくい“空気”について、多くの方々に興味と関心を持っていただくことを目的として、2002年から実施しています。

社会が大きく変化する中で、ペットと人間の関係も徐々に変わってきました。今の日本では、ペットを家族の一員として位置づけて室内で一緒に暮らす家庭が多く、その数は増加傾向にあります。富士経済「2011年ペット関連市場マーケティング総覧」によれば、犬猫共に室内飼育率は70%を超えるとの調査結果も出ています。

ペットと人間が同じ空間で共に暮らすことが日常的になっている昨今、「空気環境に対する意識や要求水準も高くなっているのではないか」「実際に暮らす中で、空気に関する様々な悩みごとや困りごとを抱えているのではないか」との推定ができます。一方で、ペットと人間が共生するための空気環境についての調査は少なく、課題や解決方法がはっきりしていないのが実情です。

そこで、当社は、19回目となる今回の調査で「人とペットが共生する室内環境と空気の課題」をテーマとして取り上げ、室内でペット（犬、猫）を飼っている人を対象に、その意識と実態をまとめました。

その結果、「ペットの抜け毛やニオイについては関心が高いにも関わらず、その対策については我慢するかあきらめ気味」「室内の温度管理の意識は総じて低い」「留守番ペットの熱中症対策は、間違っているものも多い」といった実態が浮き彫りになりました。

なお、今回の調査結果につきましては、空調機器メーカーとしての立場からの考察に加えて、ペットの生態に詳しい、赤坂動物病院 副院長の柴内晶子先生に専門家の立場から、調査結果の解析と、ペットにとって快適な室内環境について提言をいただいています。

本調査の主な結果は以下の通りです。

ペットと暮らす家族の空気環境に対する関心の高さ

- ペットとの快適な共生には、「空気の質」の改善が課題P.2
- 「空気の質」への関心は高くても、実態としては“あきらめ気味”P.3
- ペットと暮らす家族の8割以上が「ペットのための適切な室温を知らない」P.4-5
- 節電の夏でも、留守番ペットの熱中症対策を意識P.6-7

ペットのために室内空気にかかる金額はいくら

- 最多回答 1,000 円/月、最高回答 10 万円/月と、100 倍の開きP.8

ペットと暮らす家族の空気環境に対する関心の高さ

ペットとの快適な共生には、「空気の質」の改善が課題

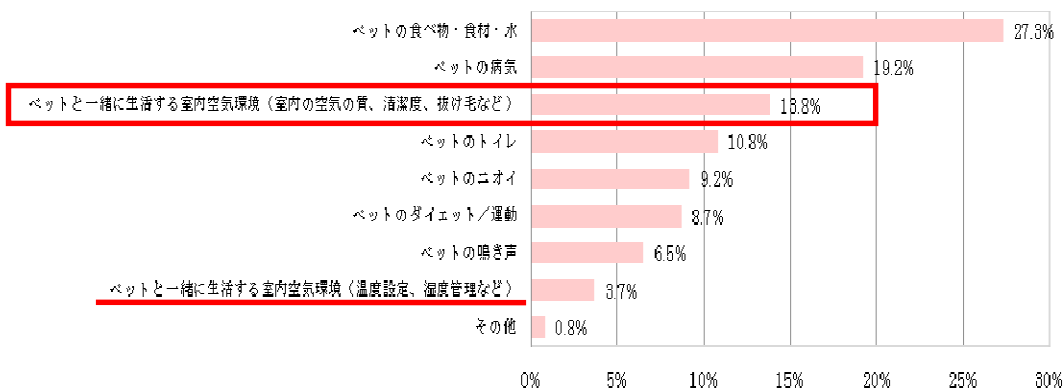
少子化の続く日本では15歳未満の子どもの数に比べ、ペットの数のほうが多くなっています。総務省の発表によると、平成21年度4月1日時の子どもの数(15歳未満)は1,714万人で、28年連続で減少しています。片や、犬猫の飼育頭数合計は、平成21年度では2,234万頭と大きく上回っています(一般社団法人ペットフード協会調べ)。家族の中でペットの存在感は大きくなる傾向にあると言えます。

ペットと共生する上で、「空気環境」はどれぐらい意識されているのでしょうか。「ペットと一緒に暮らすようになって気になっていること／関心があることは何ですか」との質問をしました。

その結果、1位(27.3%)は「ペットの食べ物・飲み物」で、2位(19.2%)は「ペットの病気」でしたが、「**室内の空気の質(抜け毛、清潔度など)**」が3位(13.8%)となりました。4位:ペットのトイレ(10.8%)、5位:ペットのニオイ(9.2%)、6位:ペットのダイエット/運動(8.7%)を上回ったことは、「**空気の質**」に対する関心が非常に高まっている状況をうかがわせます。5位(9.2%)の「ペットのニオイ」についても、広義に解釈すれば、「空気の質」の改善で、ある程度解決できる課題と捉えることもできます。これらも合わせて推察すれば、ペットと快適に共生する上で「**空気の質**」の向上が大きなテーマになっていると言えるのではないでしょうか。

一方で、「**室内の温度・湿度管理**」は3.7%しか関心を持っておらず、あまり意識されていない実態がわかりました(図1)。

図1-①. あなた(もしくはご家族)とペットと一緒に生活するようになって、現在、気になっていること／関心のあることはなんですか。〈複数回答での第1優先回答〉(N=600)



赤坂動物病院 副院長の柴内晶子先生の解析と提言-①

調査結果を拝見しますと「**伴侶動物の健康**」への意識・関心が非常に高まっていることがわかります。来院する動物のアレルギーには、ダニ、カビ、花粉など「**室内の空気質**」に関係するケースもあります。また、調査結果では関心度が低く出ている「**温度設定・湿度管理**」にも、より留意する必要がありますね。伴侶動物と健康的に暮らす上で、「**空気の清浄・温度・湿度**」管理へ配慮することは、人間と同等かそれ以上に大事だと思います。

「空気の質」への関心は高くても、実態としては“あきらめ気味”

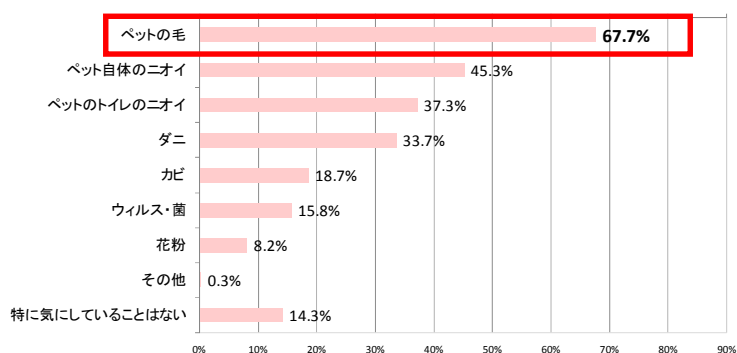
では、ペットの飼い主は、「空気の質」のどんな点を意識し、どんな行動をとっているのでしょうか。

ペットと共生する室内の空気に関して、気になることを聞いたところ、「**ペットの毛**」が**1位** (67.7%)となりました(図2)。「ペットの毛が毛布に付く」「毛が細かいので舞ってしまう」「抜け毛が服に付く」など、ペットの毛自体が視覚的に目に付きやすく、存在感を意識する機会が頻繁にあるため、問題意識としても大きくなるようです。しかし、その対策としては、「カーペットクリーナーや掃除機でキレイにする」「できる限りブラッシングをしてあげる」「こまめに風呂に入れる」といった明確な対応をおこなっています。

2位(45.3%)は「ペット自体のニオイ」、3位(37.3%)は「ペットのトイレのニオイ」と、「**ニオイ**」に関する**問題意識は予想通り、高い結果**となりました。しかし、その状況改善のために、消臭剤や芳香剤である程度対策はする飼い主が多い反面、「**あきらめている**」「**ニオイは仕方ない**」「**特に何もしない**」と回答する人も多く、不満が解決しない状況が続き、半ばあきらめ気味な様子が見て取れます。それでも、「ペットを飼っていない方の来客時には、必ずペットのニオイがしないか聞いている」といった回答も比較的多く見られることから、必ずしもあきらめきったわけではなく、**抜本的な解決方法への期待値はかなり高そう**です。

また、ウィルス・菌、カビ、花粉といったペットの**健康に繋がる空気の課題に対しても、人間同様気遣う結果**が出ました。「空気清浄機を使用している」「猫が玄関で寝転ぶので、あらかじめアルコールスプレーで玄関を消毒している」といった回答が見られます。空気が原因でペットの健康が損なわれることを警戒する傾向は今後も続くと思われる見られ、その対策としての空気清浄機に対する期待は益々高くなりそうです。

図2. あなたもしくはご家族がペットと一緒に暮らしている中で、室内空気の衛生に関し、気にしていることはありますか？<複数> N=600



赤坂動物病院 副院長の柴内晶子先生の解析と提言②

「毛」については品種により異なりますが、基本的には正しい対処がされているようです。(ただし、シャンプーの頻度、種類については、動物の身体そのもののニオイに問題がある場合は疾患の存在も考える必要があるため、主治医と相談の上決定を)。一方、「**伴侶動物のニオイ**」の問題は、動物自体を常に清潔にし、猫のトイレはこまめに処理していれば、本来ニオイは気にならないでしょう。犬の場合はペットシートでの排泄ができるようにしつけをすることでやはり解決策になると思います。また、伴侶動物のウェルネスケア(病気になる前に予防する)の観点から、空気清浄機などを活用することで、室内の「**空気の質**」を意識し、ウィルス・菌、カビ、花粉などの吸引や接触対策、予防にも気を配ることは、とても意味のあることだと思います。

ペットと暮らす家族の 8 割以上が「ペットのため適切な室温を知らない」と回答

ペット飼育者は、室内の温度管理については必ずしも意識が高いとは言えないことがわかりましたが、その実態をもう少し詳しく調べてみました。

「ペットが室内で暮らす上での適温を知っていますか」との質問をしたところ、**84.3%もの人が「適温を知らない」と回答**し、関心の低さを裏付ける結果となりました(図 3)。意外にも、ペットの飼育年数とも全く相関関係が見られず、「人が快適ならペットは大丈夫」「外でも飼えるのだから、室内はそれよりも過ごしやすはず」という意識が根強くあるののかもしれません。

また、「**適温を知っている**」と回答した人も、**5 割が「夏場は 25 度以下が適温」と回答する**など、**やや低めの温度をイメージする傾向**が見られました(図 4)。

ペットの大きさや年齢に加えて個体差などもあり、一律で「これが適温」という答えがあるわけではありません。適温を知らなくても一緒に住んでいるペットの様子を見ながら、場合によってはペットに合わせて温度コントロールをしているのかもしれない。

図 3. あなたは、ペットが室内で暮らす上での適温を知っていますか。
<択一> (N=600)

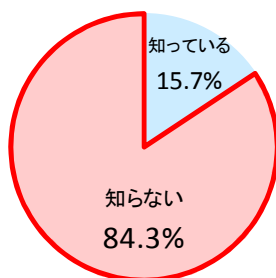
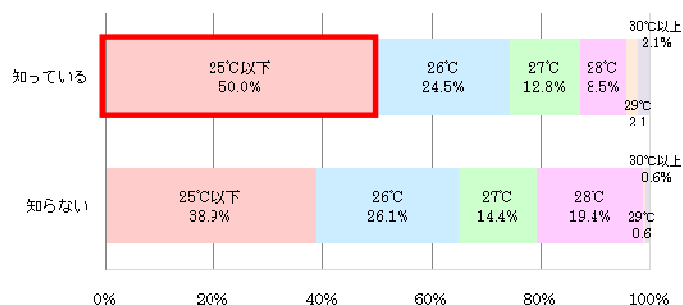


図 4. あなたは、ペットが室内で暮らす上での夏場の適温を知っていますか。
ペットが室内で暮らす上での夏場の適温は何度くらいだと思いますか。
<択一> (N=600)



実際に、「エアコンの設定温度を、誰を優先して設定温度を決めるか」という問いに対しては、**ペットを優先して室温を設定していると回答した人の61.0%が「子どもがいない」、68.9%が「飼育経験11年以上の人たち」という結果が出ています。**

ペットの飼育経験が長くなるにつれ、ペットの健康管理の一環として温度環境についても気を遣い、子どもがいない人は**子どもの代わりに**ペットに愛情を注いでいる結果、ペットの快適な空気環境にまで気を配っているのではないかと推察しています。

赤坂動物病院 副院長の柴内晶子先生の解析と提言－③

「空気の質・清浄」に加え、伴侶動物が室内で暮らす上で重要な要素は、「温度・湿度のバランスと管理」です。動物も熱中症になります。とくに犬は、人間のように全身に汗をかく機能が発達していないこともあり、人間よりも熱中症になりやすい動物です。また、品種改良によりつくられた鼻の短い犬種、たとえばフレンチブルドッグやシーズ、ボストンテリアなどは、呼吸効率が良くないため、特に暑さに弱いといえます。柴犬、秋田犬など毛が密生している犬種も、暑さには注意が必要です。さらに夏場は、温度設定だけでなく湿度コントロールも重要で、一概には言えませんが、夏は、温度：25－28℃／湿度：50-60%くらい、冬は、温度：20－23℃程を目安にします。あくまで、品種や、症状、個体差で適切な温度、湿度は変化します。適切な温度・湿度管理を行う事で、伴侶動物たちの生活をより過ごしやすくすることができます。

節電の夏でも、留守番ペットの熱中症対策を意識

ペットの温度管理の意識は総じて低いことはわかりましたが、夏や冬といった極端な温熱環境でもその意識は変わらないのでしょうか。夏と冬に飼い主が外出する際、留守番するペットの室内環境に対する意識を聞いて見ました。

「夏場に外出する際、ペットのいる室内環境をどのようにしていますか」と聞いたところ、76.0%の飼い主が何らかの暑さ対策をしており、「特に何もしていない」という24.0%を大きく上回る結果となりました(図5)。

また、何らかの暑さ対策をしている犬の飼い主は83.4%に対し、猫の飼い主は66.5%となっており、大きな差が見られました(図6)。

昨今、熱中症に対する懸念がペットにも及び、「犬の熱中症」の話題が取り上げられていることが影響し、対策を促す一因になっているものと推察されます。

対策として、最も回答が多かったのが「エアコンをつけたまま外出する(29.2%)」でした。回答者のエアコン設定温度は、政府推奨の28度未満が7割を占め、特に25度以下の低温設定する割合は24.6%を占めるなど、節電以上に家で留守番するペットに対する気遣いの意識が強く、安全を見て低めの温度設定をする傾向が読み取れます。

次いで23.5%が「窓を少し開けて外出する」を対策としています。防犯上の問題はさておき、一定量の換気ができるようなしておくことは、急激な温度上昇を緩和する効果はありそうです。

3位は、「扇風機やサーキュレーターをつけて外出する」で13.2%の人が対策として挙げています。しかし、犬や猫は体から発汗しないため、扇風機では体温を下げる効果は低く、熱中症対策としてはあまり期待できません。

図5. 夏場に外出する際には、ペットのいる室内環境をどのようにしていますか。〈択一〉(N=600)

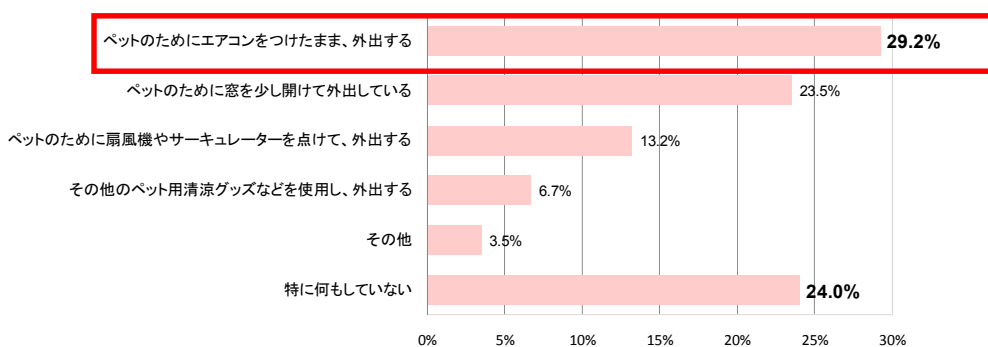
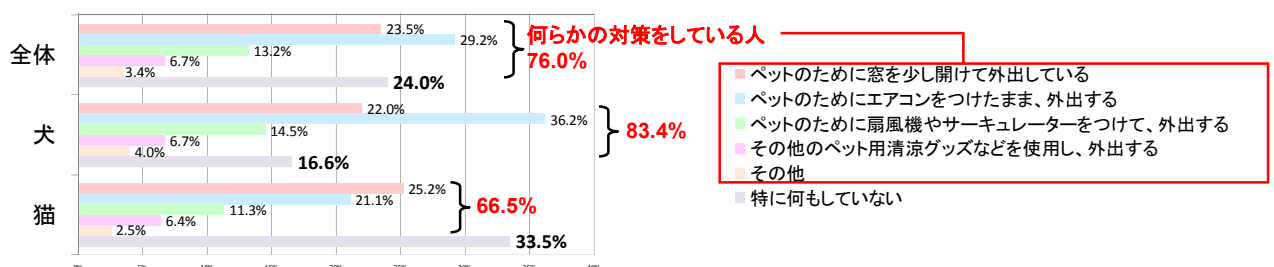


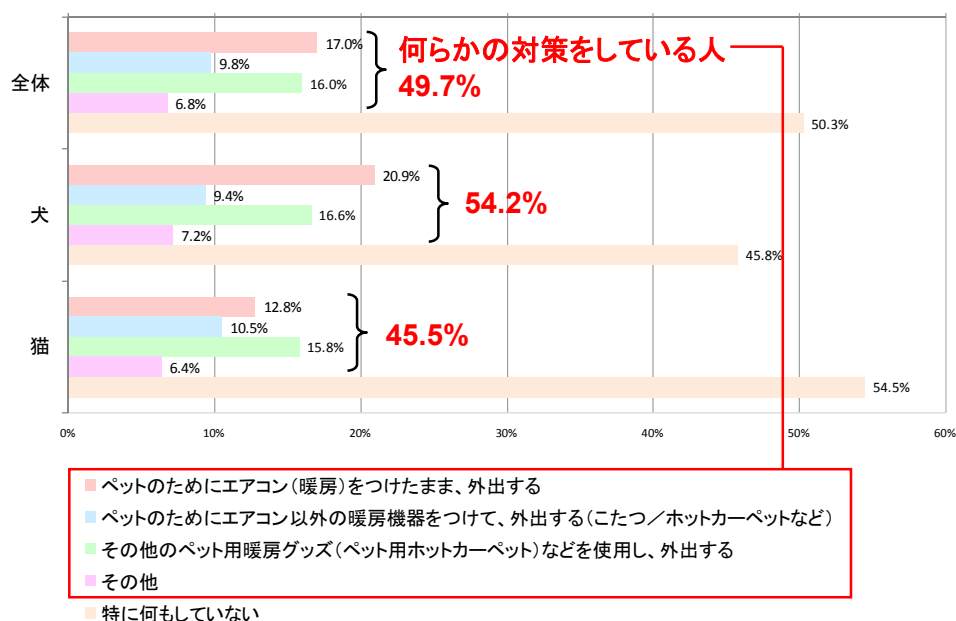
図6. 夏場に外出する際には、ペットのいる室内環境をどのようにしていますか〈択一〉(N=600)



「冬場に外出する際、ペットのいる室内環境をどのようにしていますか」と聞いたところ、寒さ対策をしている家族は49.7%と、夏の暑さ対策に比べてかなり低い結果となりました(図7)。

また、何らかの寒さ対策をしている犬の飼い主は54.2%に対し、猫の飼い主は45.5%となっています。童謡「雪」に歌われている「犬は喜び庭かけまわり、猫はコタツで丸くなる」とあるような「犬は寒さに強く、猫は弱い」という一般的なイメージとは若干異なり、犬の飼い主の方が寒さを気にする結果となっています。

図7. 冬場に外出する際には、ペットのいる室内環境をどのようにしていますか(択一)(N=600)



赤坂動物病院 副院長の柴内晶子先生の解析と提言④

住宅の性能や環境も違いますので、動物と室内で暮らす上では、季節ごとの、とくに真夏日と真冬日の室内環境を把握しておくことがまず重要です。外気温が30℃を越すような真夏日に、エアコンなどの空調機器なしで、室内の温度や湿度がいったいどれくらいになるのか把握せずに放置することは危険です。特に、夏場の外出時には、エアコンをつけて、25-28℃くらいの室温を保つようにしましょう。とくに犬の体質を考えると、夏場のエアコン利用は必須です。動物と室内で健康的に暮らすためには、空調機器の電気代は必要経費です。家全体を完全に管理するのが難しい場合でも、夏冬通して、家の中の一部だけでも、適切な温度管理を行える場所をつくっておくと良いでしょう。真夏日以外でも、特に夏は空調管理は必須です。そのほか動物の品種や疾患の状況に応じて主治医指示を必ず仰いで下さい。

ペットのために室内空気にかける金額はいくら

最多回答 1,000 円/月、最高回答 10 万円/月と、100 倍の開き

ペットと快適に過ごす「空気環境」をつくるという意識を金額に換算するといくらぐらいになるのでしょうか。

「ペットと一緒に暮らす室内空気環境の対策にいくらまでかけられるか」を聞いたところ、**最も多い回答は 1,000 円/月 (136 人)**でした。次いで 3,000 円/月 (108 人)、5,000 円/月 (91 人)と続き、約 7 割が 5,000 円未満と回答しています。**平均値は 3,644 円/月**となりました(図 8)。

最高額は 10 万円/月と非常に高額な回答をした方もいました。全くお金をかけない(0 円)と回答した人も 33 人もいます。**申告した金額が低いほど、夏の外出時に「特に何もしない」との回答と相関関係が見られます**(図 9)。

年代別に見ると、**70 代が 4,598 円/月と平均よりも 2 割以上多い結果**となっています。また、**飼育歴では 5 年未満の方が 4,078 円と比較的高く**、ペットの飼育歴が短いうちはお金をかけてでも環境を整えようという意識が強いものと思われます。

図 8. 室内空気への対策に、仮にお金をかけるとしたらいくらまでお金をかけられますか？<自由> (N=600)

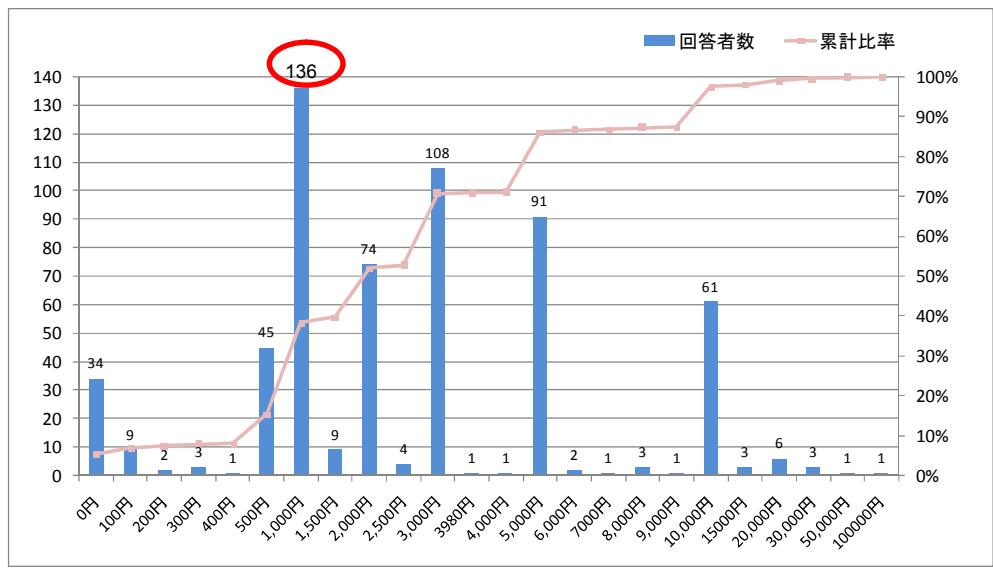
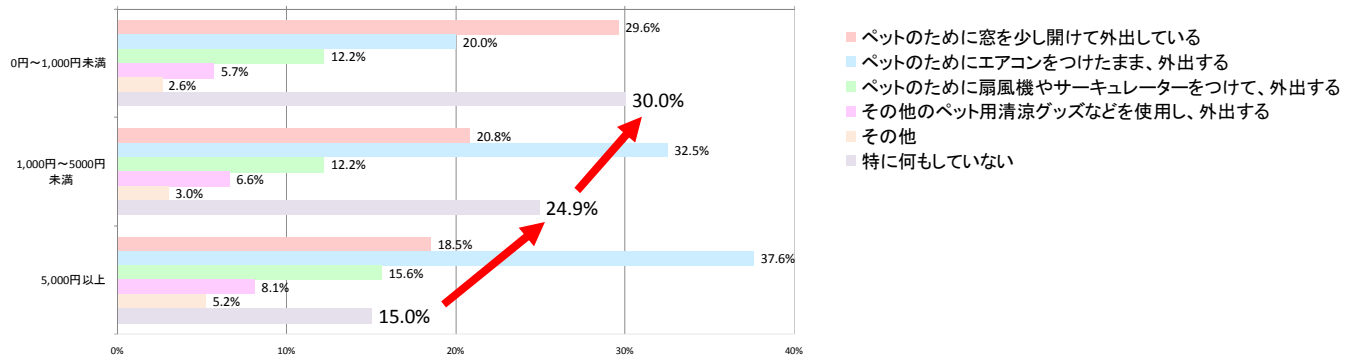


図 9. 夏場に出外する際には、ペットのいる室内環境をどのようにしていますか？<択一> (N=600)



ペットの家族化の傾向が進む中で、ともすればペットを可愛がる意識が先行し、空気環境に関しても、やや過剰な気遣いをしているのではないかと予想していましたが、今回の調査により、実生活に即した対策をしながら共生している実態がわかりました。

しかし、ペットの健康を大きく損なう可能性のある夏場の熱中症対策に関しては理解が十分とは言えず、あらためてペットと共生する空気環境について意識する必要があるようです。

また、空気質に関しては問題意識が大きいにもかかわらず、抜本的な対策がなく、ややあきらめ気味になっているなど、総合空調メーカーとしてソリューションを提案できる余地はまだまだあり、課題として認識しています。

ペットの家族化が進み、飼い主の方々はたくさんの愛情をペットに注いでいると思います。ペットが生活する上での適温を知り、ちょっとした気遣いをすることで、同じ空間で家族同様に過ごすペットと共に、もっと快適に気持ちよく生活できるのではないかと考えます。

当社は、今後も人間もペットも両者が快適に共生していくための室内環境について、今後も関心を持って見ていきたいと考えております。

赤坂動物病院 副院長の柴内晶子先生の解析と提言⑤

人と伴侶動物が同じ室内で共に快適に暮らすためには、動物とその周囲の室内環境を絶えず意識しておくことが重要です。自分では室内環境をつくることのできない伴侶動物のために、私たちが適切な室内環境に気を配らなくてははいけません。そうすることで、「伴侶動物の健康」へのリスクや「ニオイの問題」も最小限にとどめることができるでしょう。

伴侶動物には帰る自然はありません。その名の通り、人と共に暮らし、人と共に生きる大切なパートナーです。人より早く(およそ5倍ほどと言われます)年齢を経ていく存在でもある伴侶動物のために、その時々々の健康状態に応じた環境づくりは大変重要です(5歳でおよそ人間の35歳くらいになると言われています)。適切な環境づくりによって病気を回避できる場合も少なくありません。特に昨今、大きく変化を続ける気候環境の中で、室内で共に暮らす伴侶動物に配慮した「空気環境」への着目は、大変重要かつ必要不可欠な分野であると思われます。今回の調査はそうした意味で貴重なもので、伴侶動物医療の現場に携わる者として、今後のご家族の意識の移り変わりにも着目したいと感じます。

<柴内晶子先生 プロフィール>

赤坂動物病院副院長。一般診療のほか、しつけ相談、カウンセリングも担当。

また社団法人日本臨床獣医学フォーラム幹事市民担当も務め、人と動物の共生社会の実現を推進する獣医師。著書に、「子犬がわが家にやってくる！一犬と心が結ばれる とっておきの暮らし方」、「犬の気持ちかわかる本」など。



【調査概要】

- 表 題 : 「人間とペットが共存する室内環境と空気の課題」に関する意識調査
- 調査主体 : ダイキン工業株式会社
- 調査実施 : 株式会社マーシュ
- 調査方法 : アンケート調査(インターネット調査による)
- 調査期間 : 2013年6月3日(月)～6月5日(水)
- 調査対象 : 全国の20代、30代、40代、50代、60代、70代の室内でペットを飼っている人
- 回答人数 : 600名(各年代100名) ※内訳は下表の通り

エリア	性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	合計
全国	男女	100	100	100	100	100	100	600

■報道機関からのお問い合わせ先

ダイキン工業株式会社コーポレートコミュニケーション室

【本社】 〒530-8323 大阪市北区中崎西二丁目4番12号(梅田センタービル)
TEL (06)6373-4348 (ダイヤルイン)

【東京支社】 〒108-0075 東京都港区港南二丁目18番1号(JR品川イーストビル)
TEL (03) 6716-0112 (ダイヤルイン)

現代人の空気感調査 <http://www.daikin.co.jp/air/knowledge/library/index.html>